

# 松山市教育会情報

発行所 松山市教育会  
松山市祝谷町1-5-33  
☎ 089-933-0354  
発行者 高橋 猛  
編集 調査研究部

## 子どもの幸せや成長を願う教育会でありたい



副会長  
中尾 順子



「子規さん俳句かるた」より

松山市教育委員会 編  
松山市立子規記念博物館 監修

高橋猛会長の下、小学校の校長会長として松山市教育会の副会長をさせていただいています。

今回紹介されている教育功労賞は、「学校教育及び社会教育の進展に著しく貢献した個人または団体に対して」総会で表彰されました。それぞれの分野で地道にしかも確実に実績を積み重ねてこられた功績に感謝するとともに、頭が下がる思いです。また、現職と教育会OBがともに行う教育講座は今年9回目を迎え、こちらも実績を積み重ねてきました。

さて、私にとって、マイロングブーツ（長靴とも言います）、マイグローブ（ガーデニング用）は必需品です。学級園や学校園などは大好きな場所で行きます。土いじりをする暇な校長と思われるかもしれませんが、これがなかなか、学校の姿が見えてくる場所なのです。

業間や昼休みなどぶらぶらしていると、そこへ虫を探しに來たり、花の種を取りに來たりする子に出会います。それとなく様子を見ながら話し掛けてみます。そんな子に限って、学級担任から実は気になる子がいると報告があったり、保護者から相談があったりするのです。その子の名前や顔が分かるので、話は早い。子どもとつながりもできているので、保護者も分かってくれやすい。学級の様子も見えます。教室や運動場から声が聞こえてきます。音楽室からは歌声や楽器の音が聞こえてきて、一緒に口ずさんでいるときもあります。そういったいろいろな声や音から、教室の雰囲気伝わってくるのです。校務員さんと仲良くなるのもここです。花の話に始まり、いつの間にか人生相談をしているときもあります。地域の方とよく出会うのもここ。よく「幼児教育は砂場にあリ」などと言われますが、花壇もなかなか捨てがたい場所なのです。

今年は、修学旅行で広島、職員旅行で長崎を訪れました。長崎では、永井隆著の「いとし子よ」の本に出会いました。原爆で母親を亡くし、父親の自分の命も長くないことを悟り、懸命に生きながら、残される我が子に思いを伝える文章が綴られています。親子で細々と暮らす如己堂を訪れたヘレンケラーとのエピソードなども交え、優しく、厳しく「なんじの近き者を己のごとく愛すべし」と我が子を諭します。「生きる」ことの意味を考えさせられると同時に、そこに込められた親の気持ちに思いをはせると、花壇によく顔を見せるあの子もこの子も、すくすく育てほしいなどの思いを強くしました。

子どもの幸せや成長を願う気持ちは、教育会の会員の共通した思いではないでしょうか。現職と教育会OBとで、子どもを思う活動を地道でもいい、続けられることを願っています。

# 平成27年度 教育功労者 松山市教育会



松山市教育会では、本年5月21日の松山市教育会定期総会において、以下のとおり、7氏に第49回教育功労賞を贈り、表彰しました。

## 橋本英厚氏

北条公民館長として地域の活性化に尽力するとともに、松山市公民館連絡協議会会長、愛媛県公民館連絡協議会会長、松山市社会教育委員、愛媛県社会教育委員としても活躍している。また、その経験と実行力を生かし、北条地区人権教育推進協議会副会長、北条ブロック人権教育協議会会長、松山市人権教育推進員も努めている。

また、北条地区青少年健全育成連絡協議会長並びに松山市青少年育成市民会議副会長として、青少年の健全育成にも力を発揮している。社会福祉に関しても、北条地区社会福祉協議会監事、松山市社会福祉協議会理事、愛媛県社会福祉協議会評議員として貢献している。

このように、多方面にわたる業績を残しており、誠実温厚な尊敬すべき人柄でもある。

## 武市 徹氏

平成18年度から松山市教育会桑原支部長として6年間尽力し、地域の教育の発展と児童生徒の健全育成に貢献した。また、桑原地区の町内会長や公民館分館長及び民生委員として貢献するとともに、防災指導や学校ボランティア活動の充実に貢献した。

特に、防災士として、平成22年度から毎年、防災訓練の計画と実践指導及び救急法の指導に当たり、地域の社会教育に多大な貢献を行った。また、学校ボランティアにおいては、児童生徒の登校・挨拶指導や自転車教室での安全教育指導、養護施設等への訪問・引率指導、地域歴史巡り指導など、地域の児童生徒の育成に、平成22年4月から継続して貢献した。

## 西川 祥子氏

2期6年間にわたって、久谷地区民生児童委員として活躍した。長年の教職経験、特に中学校の部活動指導で培った「心を育てる」指導を生かし、小中学生の心のケアに努めた。常に相手の立場に立ち、地域住民のよき相談相手として活動し、皆から敬愛された。

また、長年の部活動指導で培ったバレーボールの技能や指導技術を生かし、昭和32年のママさんバレーボールの創設当時から久谷地区の選手兼監督として活躍し、社会体育の普及・振興に努めた。

さらに、久谷地区の地域伝統芸能「創作歌舞伎 伊予八百八狸」の指導に10年以上携わり、多大な成果を収めた。現在も、伝統芸能「長唄」を各種文化祭で発表し、地域文化の発展に尽力している。

**豊田 康二氏**

学校事務職員として38年間勤務し、松山市や愛媛県の事務職員の中で、副部長や委員長を務め、指導的な立場で事務職員全般の牽引役として力を発揮した。特に学校事務共同実施では、三津地域共同事務室の室長として、長年の経験と新しい考え方で事務の適性化・効率化を目指して、若年事務職員の育成や他の小中学校の事務職員の資質向上に努めてきた。温和で誠実な人柄で、何事にも誠心誠意取り組む姿は、教職員の模範である。生徒や教職員へは、常に個に応じた指導・支援を心掛けており、スピーディーできめ細かな対応は、学校が円滑に機能する一助となっている。高浜地区の青少年健全育成活動にも積極的に参加し、保護者や地域の方からも信頼されている。

**宮内 裕子氏**

教員生活の長期にわたって、幼年教育及び生活科指導の分野で活躍した。松山市においては指導的立場で活動し、教員の資質向上に貢献した。平成19年度に、松山市教職員教育長表彰を受けている。

愛媛大学附属幼稚園においては、主任として幼稚園運営に携わり、園長や副園長とともに、保護者が通わせて安心な幼稚園づくりに取り組んだ。松山市立双葉小学校では、幼年教育主任として、生活科を中核とした楽しい授業づくりの工夫に努めた。また、松山市幼年教育主任会長として、松山市の幼年教育の充実を図り、幼年期の児童の育成に多大な貢献をした。

**岡村 健一氏**

松山市において特別支援教育主任会の副会長として、市内の関係教職員の指導的な立場で特別支援教育の推進に努めるとともに、就学指導委員会委員及び教育相談調査員として児童生徒の就学に関わる相談活動に当たり、児童の適正な就学ができるように尽力した。

市内の番町・味酒小学校においては特別支援学級の担任として直接児童の指導に携わり、個の実態に応じたきめ細かな指導を続けてきた。また、久米小学校においては、通級指導教室の担当者として校内だけでなく他校の対象児童の指導にも当たり、保護者からも絶大な信頼を得ている。

本校の教職員だけでなく、市内の教職員からも厚い信頼を得ており、松山市の特別支援教育に対する貢献度には多大なものがある。

**友近 恵子氏**

学級担任一筋に38年間勤務し、学校生活のスタートとして特に大切な1年生の生活指導をはじめ、学習習慣・生活規律の確立に向けて卓越した指導力を発揮し、幼稚園・保育園から小学校へのスムーズな移行と順応を支えてきた。学年主任としては、多くの後輩教職員の模範となり、教職員の資質向上や教師力向上に多大な貢献をしてきた。熟練した学習指導と生活指導で、学力向上や様々な困難事案の解決に取り組み、確かな成果を上げてきた。その巧みな指導技術は、全ての教職員の手本となるとともに、子どもたちをはじめ保護者はもちろん、教職員からも絶大な信頼を得ている。

大変明るく闊達な性格で、職場の雰囲気の大いに盛り上げ、教職員のやる気を引き出し、勤務した各学校の教育目標達成に向けて、陰ながら支え、多大な役割を果たしてきた。

## 松山市教育会 教育功労者表彰に関する規程」より

第1条 この規程は、松山市教育会会則第4条第4号に基づく事業を行うために定めるものである。

(目的)

第2条 この表彰は、会員の中で、学校教育及び社会教育の伸展に著しく貢献した個人または団体に対して、その功績をたたえるとともに会員の意欲の高揚を図り、松山教育の向上発展に寄与することを目的とする。

(内容)

第3条 表彰は、次の功績に対して行う。

- 1 学校教育について、顕著な功績のあったもの。  
(学校経営、学級経営、各教科及び教科外等の研究や実践)
- 2 社会教育について、顕著な功績のあったもの。  
(各種の社会教育活動、学校と家庭、社会との関連に関する教育活動)  
(一部抜粋)

## 第9回 教育講座 ①



### 今、求められる道徳教育の具体的な展開

講 師 愛媛県総合教育センター 企画開発室

指導主事 山 岡 健 二 先生

平成28年7月27日(水)午前10時から、エスポワールえひめ文教会館を会場に、今年度初の教育講座を開講した。まず、松山市教育会 高橋猛会長から挨拶があり、「道徳が年間35時間きちんと実施されているのか」と、課題を投げ掛けられた。続いて講師から、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から「特別な教科 道徳(道徳科)」へ完全移行する道徳について改訂のポイントと指導方法の工夫についての講話があった。

#### 1 平成27年3月27日に公示された小学校学習指導要領の概要と指導について

##### (1) 学習指導要領改正の主なポイント

「道徳」を「特別な教科 道徳(道徳科)」と改正。道徳科に検定教科書を導入。目標を簡潔な表記に改善。いじめ問題への対応の充実。内容を発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善(キーワードの提示)。問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫する。

##### (2) 問題解決的な学習などの多様な方法を取り入れた指導

###### ア 問題解決的な学習の進め方

①道徳的問題を明らかにする…「何が問題か」 ②解決策を考える…「登場人物はどのようにしたらよいか」「自分ならばどのようにするか」「人間としてどう生きるか」 ③解決策について話し合う ④学習を振り返り、日常生活につなげる。

###### イ 問題解決的な学習を進めるに当たって

①解決策の理由(動機)を考える…「どうしてそう思ったか」 ②将来の結果(因果関係)を考える…「そうしたら、どうなると思うか」 ③過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる…「自分も同じような経験はなかったか」 ④可逆性の原理…「自分がそうされてよいか」 ⑤普遍性の原理…「いつ、どこで、誰にでもそうするか」 ⑥互惠性の原理…「それでお互いが幸せになれるか」

(3) 指導体制の充実

他の教職員とのチーム・ティーチングなどの協力的な指導、校長をはじめとする管理職や他の教員の得意分野を生かした指導（ローテーション授業）などの、全教師が協力し合う指導体制を充実させることが大切である。

(4) 道徳科に関する評価

数値による評価ではなく、記述式であること。比較による相対評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを受け止め、励ます個人

<p>子どもの自己評価(ワークシート例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の授業は楽しかったか。</li> <li>・ 今日の授業は充実していたか。</li> <li>・ しっかり考えることができたか。</li> <li>・ 自分の考えを進んで発言できたか。</li> <li>・ 友達の考えをしっかり聞けたか。</li> <li>・ ほんのりしたり、なるほどと思ったりすることがあったか。</li> <li>・ 教材は心に響いたか。</li> </ul>	<p>子どもの自己評価(ワークシート例)</p> <div style="border: 1px solid white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>今日の勉強で感じたこと、考えたこと、学んだことを書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の道徳的価値に触れているか。価値の理解が深まっているか。</li> <li>・ 自己の生き方について考えているか。(今までとこれから)</li> </ul>
---	--

内評価として行うこと。発達障がい等の児童生徒について、配慮すべき観点等を教員間で共有すること。児童生徒の自己評価ワークシートをストックしていくことが重要になり、評価へつながる。

(5) 道徳科に生かす指導方法・工夫

資料提示・発問・話し合い・書く活動・表現活動・板書・説話などをそれぞれ効果的に工夫していく必要がある。

<p>教材提示の視覚化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強調 ※予め資料に手を加えて提示すること</li> <li>○ 分割</li> <li>○ 抽出</li> <li>○ 隠す</li> <li>○ 置換</li> <li>○ 付加(場面付加)</li> <li>○ 仮定(条件付加)</li> <li>○ 図解</li> <li>○ 実物</li> </ul> <p style="font-size: small;">平松市立西平野小学校校長 坂本哲也氏</p>	<p>発問を発想する軸 (主人公に対する子どもの立ち位置)</p> <div style="text-align: center;"> <p>共感的 ← 主人公の心情や考えを明らかにする → 分析的</p> <p>○のほどはどのくらいか</p> <p>他</p> <p>近 ← 主人公に自分を重ねる → 遠 ← 主人公を客観的にみる</p> <p>自</p> <p>投影的 ← 自分が○○だったらどうするか → 批判的 ← 自分が○○だったらどうするか</p> </div>
--	---

2 まとめ

山岡先生から、先生方に望むこととして、道徳の授業を「確実に実施する」「楽しむ」「チャレンジする」という言葉が贈られました。「challenge」は「change」に通ずる。子どもと共に考え、悩み、感動を共有して行ってほしいと結ばれました。

山岡先生の笑顔あふれる軽妙な話し方と、効果的な指導方法の工夫などについて具体的な事例を提示していただけたおかげで、参加者の満足度は、非常に高かった。

**<参加者の感想>**

- ・ 道徳の教科化に至る変化について具体的に知ることができてよかった。
- ・ 中心発問、問い返しの発問が具体的で、2学期以降の授業で使っていきたい。
- ・ 確実に実施するという覚悟ができた。私自身も子どもも楽しめる道徳の授業にチャレンジしたい。
- ・ 校内で先生方に伝達・啓発するためのよい自己研修となった。

# 第9回教育講座②



## 学校で役立つ心理技法

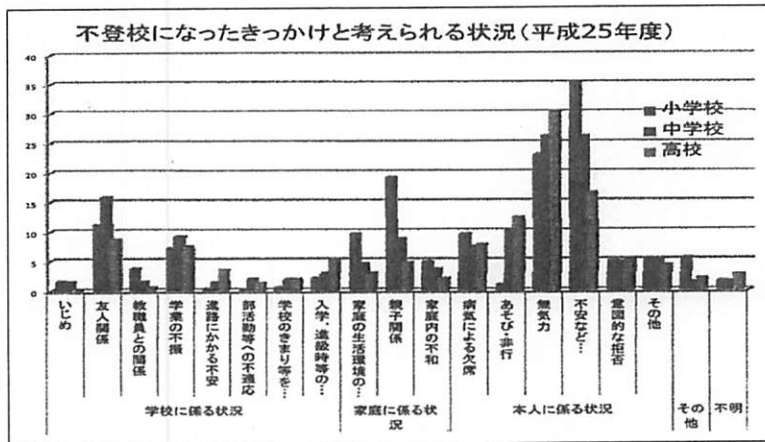
講師 愛媛県総合教育センター 教育相談室

指導主事 石川 智子 先生

平成28年8月2日(火)午前10時からエスポワールえひめ文教会館を会場に、第2回教育講座を開講した。開会にあたり、高橋猛会長から「いじめ、不登校の課題の根幹に関わる児童理解について学び、2学期に生かしてほしい。」との挨拶があった。続いて、講師より次の通りお話をいただいた。

### 1 学校現場に求められる課題

学校が抱える喫緊の課題として、特にいじめ・不登校が挙げられる。しかし、実態としては、不登校生徒は増加しており、これは愛媛県でも同じ状況である。



左のグラフは教員が不登校のきっかけと考えた生徒の状況を表したものである。不登校の原因として、小学校では「家庭や周囲への不安」に起因していたものが、中学校では、「学業成績や友人関係などの本人自身の問題」に変化している。このような人との関わりにおける葛藤、摩擦は大人になっても大きな影響がある。では、人間関係をスムーズに構築するにはどのようにしていくとよいのだろうか。

人間関係の基本は親子関係であると考えられている。一番身近な人とのしっかりとした信頼関係が基盤となるという考えが、対人関係療法の基本である。しかし、長時間労働やブラック企業など、社会の変化により、家庭の中でコミュニケーションを図る機会が減っていると考えられる。このような環境で学校に来るとささいなことでトラブルが起こる。特に双方のコミュニケーションの行き違いが原因で対人関係においてトラブルが起こっている。自分の思いを伝える、相手の状況を捉える聞き方の育成が重要と考えられる。

### 2 対人関係療法

#### (1) 来談者中心療法

アメリカのカール・ロジャーズが唱えた療法。相談者を中心にして進めていく心理療法。「人間には自己実現する力が自然に備わっている。カウンセリングの使命は、この成長と可能の実現を促す環境をつくることである。」という理論の下、支援者は相談者が何をしたいか、どうしたいかを聞き出し、自己決定を促す療法である。

技法として代表的なものは傾聴である。相手が更に多くのことを話せるように、話を受容的に聴く。それにより、話し手が悩んでいることについて整理できるように支援するというものである。聴くことは、支援につながる重要な手法である。聴くことの重要性を実感するために以下の実習を行う。

実習1・・・相手の話をわざとひどい態度で聞いたり、無表情で相手の話を聞いたりする。

実習2・・・あいづちを打ったり、繰り返しを行ったりしながら相手の話を聞く。

※ 繰り返しは、相手の話の一部を返しながらかく。

体験した参加者からは、「実習1では、自分のことを分かってくれないと感じ、自分も相手を見て話ができなかったが、実習2では、分かり合いたいという気持ちになって相手の話を聞くことができた。」という声が聞かれた。

#### (1) あいづち、うなずき、繰り返し、伝え返しの効果

あいづちやうなずき、繰り返しのようか相手か言ったことを一部返すことは、本人か言ったことを繰り返しているので外れることはない。自分のことを分かってくれるという安心感をもたせるので、相手の緊張や警戒心を和らげる効果がある。

伝え返しとは、相手の話の中で感情を表す言葉が出てきたらそれを返すことである。伝え返しにより、自分の気持ちを自覚させ、一度自分の気持ちを客観的に捉えることができる。そして、自分がどうしたいか等、次のことを選択し、納得して行動できるようになるわけである。

以上のように、よい傾聴のポイントは3つある。①余計なことを言わない。②解決しようとするのではなく、相手のことを聞き返す。分かつろうとする。③それが良いか悪いかを決めつけない。あるがままに受け止め、本人か自己決定するように促すことである。

### 3 学校教育とグループアプローチ

集団の中で自分の立ち位置を不安に思ふ児童もいる。集団を動かしてその不安を解消する方法について代表的な2つを紹介する。

#### (1) ソーシャルスキルトレーニング

アメリカのロバート・リバーマンが推奨した技法で、集団でワークに取り組みながら、社会に必要なコミュニケーション技術を向上させるというものである。例として、上記に取り上げた実習1や2に学級で取り組む。年間カリキュラムに取り入れている学校もある。

#### (2) 構成的グループエンカウンター

カール・ロジャーズの構築した方法。集団学習経験を通して行動の変容と自己成長を促すもので、短期間で受容的な集団づくりを実現することを目的としている。中1ギャップに対応するため、小・中学校が連携して行っている例もある。

上記以外にも様々な支援方法がある。傾聴し、読み取った児童の実態に合わせてよりよい方法を選択し、支援していく必要がある。

---

参加者からアンケートの回答を得た。ほとんどの参加者が「よかった」と回答し、有意義な講座となった。参加者の主な感想は以下のとおりである。

- ・傾聴のポイントがよく分かり実践に生かしたい。
- ・センターでの実践や理論に基づいて、個別の相談時に使える傾聴と集団へのアプローチの両面から教えていただいたのでよかった。
- ・聞くスキルを中心に、教員が身に付けておくか役立つ具体的技法を再確認することができた。

## ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、勝山中、東中	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、鴨川中、内宮中、北中
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、拓南中、雄新中、桑原中、城西中	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、道後中、湯山中、日浦中、旭中
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、津田中、垣生中、余土中、西中	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、久谷中、南中、南第二中、椿中
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、怒和小、津和地小、中島小、三津浜中、高浜中、興居島中、中島中	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、久米中、小野中
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、粟井小、北条北中、北条南中

### ブロック紹介

#### 第3ブロック理事 加地 勝重

第3ブロックは、味生・生石・垣生・余戸の4つの地区から成っています。松山空港を見下ろし、日本有数の空港撮影スポットである垣生山の周囲に位置する味生小・生石小・垣生小・余土小・味生第二小・さくら小の6校と、津田中・垣生中・西中・余土中の4校に、6,800余名の児童生徒が学んでいます。ブロック内の6つの教育会支部で、現職会員約320名とOB会員130名が活動しています。

ブロックの活動として、第3ブロック支部長及び事務局長会を、毎年7月と2月に開催しています。ここでは、ブロック理事の所属校が世話係となり、ブロック行事の計画や運営についての話し合いや反省をしています。そのため、ブロック内の支部間の連携が、スムーズに取れています。

今年度もブロック行事として、8月9日(火)の午前中に、味生第二小グラウンドにて「第3ブロックグラウンドゴルフ大会」を



実施しました。所属の各支部から9チーム編成で、OB会員23名と現職会員27名、合計50名が参加しました。初心者から上級者まで、猛暑にも負けず、和気あいあいのムードで盛り上がりました。

その他に、余土・さくら支部主催で毎年実施している親睦旅行に、ブロック内からも参加しています。今年度は11月に「秋の讃岐ぶらり旅」を実施の予定です。



### 本年度の文化講座のご案内

福利厚生部

開講中の文化講座を、ご紹介します。

現在、5つの文化講座が文教会館を中心に行われています。会員の皆さんは、各先生のご指導のもと、楽しく、熱心に受講されています。

- 囲碁・将棋教室 月1回 第1土曜日午後実施 大場武志先生のもと会員20名
- 俳句交換会 毎月「交換句集」発行 吉田晃・近藤良郷先生のもと会員12名
- ヨガ講座 月1回 第2土曜日午後実施 脇坂恭子先生のもと会員15名
- 川柳教室 月1回 第3水曜日午後実施 栗田忠士先生のもと会員16名
- 詩吟教室(本年度より) 月2回 月曜日午前実施 伊賀上峰山先生のもと会員9名

ご入会ご希望の方、興味のある方は、市教育会事務局までご連絡ください。